



RESEARCH

発表資料

2006年10月2日

中高年パネル調査～第5回調査の概要と「プレ団塊世代」の動向

株式会社ニッセイ基礎研究所（社長：竹原功）では、2005年12月に第5回「中高年パネル調査（暮らしと生活設計に関する調査）」を実施しましたので、その結果の一部を発表させていただきます¹。

「中高年パネル調査」では、中高年の男性（昭和8年～昭和22年生まれ）の同一人物を、1997年、1999年、2001年、2003年、2005年の計5回にわたって追跡的に調査しており、調査対象の中には昨今話題の「団塊の世代」も含まれております。

調査データについて、今後さらに分析を進めていく予定ですが、以下のような興味深い特徴がみられましたので、ご紹介させていただきます。また、団塊の世代の定年を来年に控え、プレ団塊世代（昭和18～昭和22年生まれの世代（団塊世代を1年含む））については、2005年調査の結果だけでなく、過去の調査結果も一部掲載しておりますので、皆様のご関心に応じてご参照頂ければ幸いです。

- 中高年男性にも情報化の波～プレ団塊世代の携帯電話利用率は8割。
- 中高年男性の9割弱は、夫婦の意思疎通が「できている」。
- 公的介護保険制度を「頼りにしている」割合は7割強～プレ団塊世代で1999年調査より約4割増加。
- 家計収入は年齢が高いほど減少するが、消費支出は年齢によって顕著な差なし。
- 中高年男性の生きがいは趣味と家族。

【本件に関するお問い合わせ】

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7

株式会社ニッセイ基礎研究所 (www.nli-research.co.jp)

清水（企画総務部 広報担当） 03-3512-1771 shimizu@nli-research.co.jp

松浦（生活研究部門） 03-3512-1798 matsuura@nli-research.co.jp

¹3回目までの分析結果はニッセイ基礎研究所「所報特集号（vol.30）中高年ライフコース研究」に、4回目までの分析結果は「所報特集号（vol.39）中高年ライフコース研究Ⅱ」に掲載しております（弊社HP <http://www.nli-research.co.jp/pub.html> にて閲覧いただけます）。



<目次>

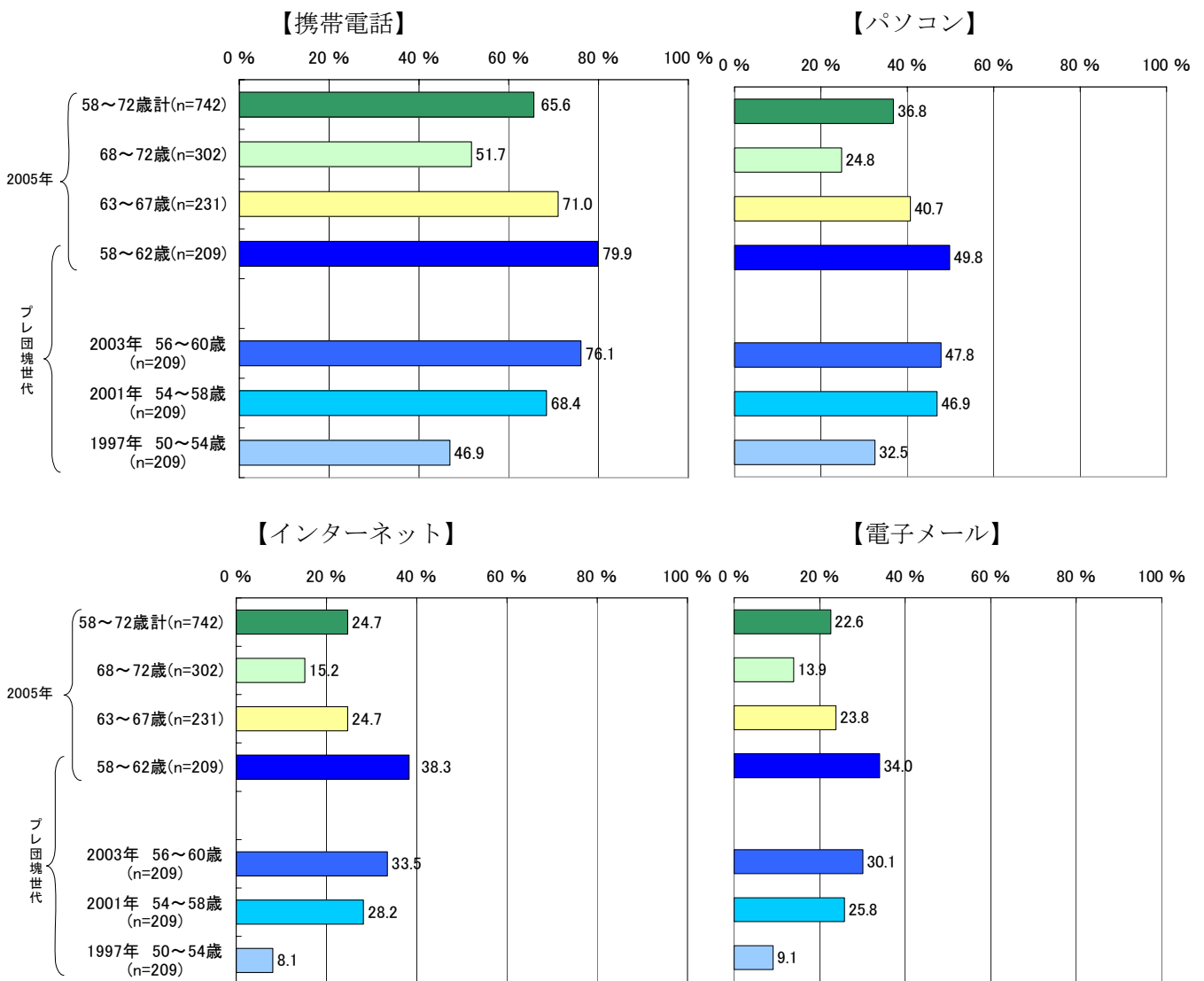
I	中高年男性にも情報化の波～プレ団塊世代の携帯電話利用率は8割。	1
II	中高年男性の9割弱は、夫婦の意思疎通が「できている」。	2
III	公的介護保険制度を「頼りにしている」割合は7割強～プレ団塊世代で1999年調査より約4割増加。	3
IV	家計収入は年齢が高いほど減少するが、消費支出は年齢によって顕著な差なし。	5
V	中高年男性の生きがいは趣味と家族。	6
VI	中高年パネル調査の概要	7

Ⅰ 中高年男性にも情報化の波～プレ団塊世代の携帯電話利用率は8割。

2005年調査における情報機器の利用率は、携帯電話が65.6%、パソコンが36.8%、インターネットが24.7%、電子メールが22.6%となっている。

情報機器の利用率は、年齢が若いほど、調査年度が新しいほど高い。昭和18年～昭和22年生まれの世代（団塊世代を1年含む。以下、「プレ団塊世代」と呼ぶ）の利用率をみると、携帯電話は79.9%、パソコンは49.8%にのぼっている。

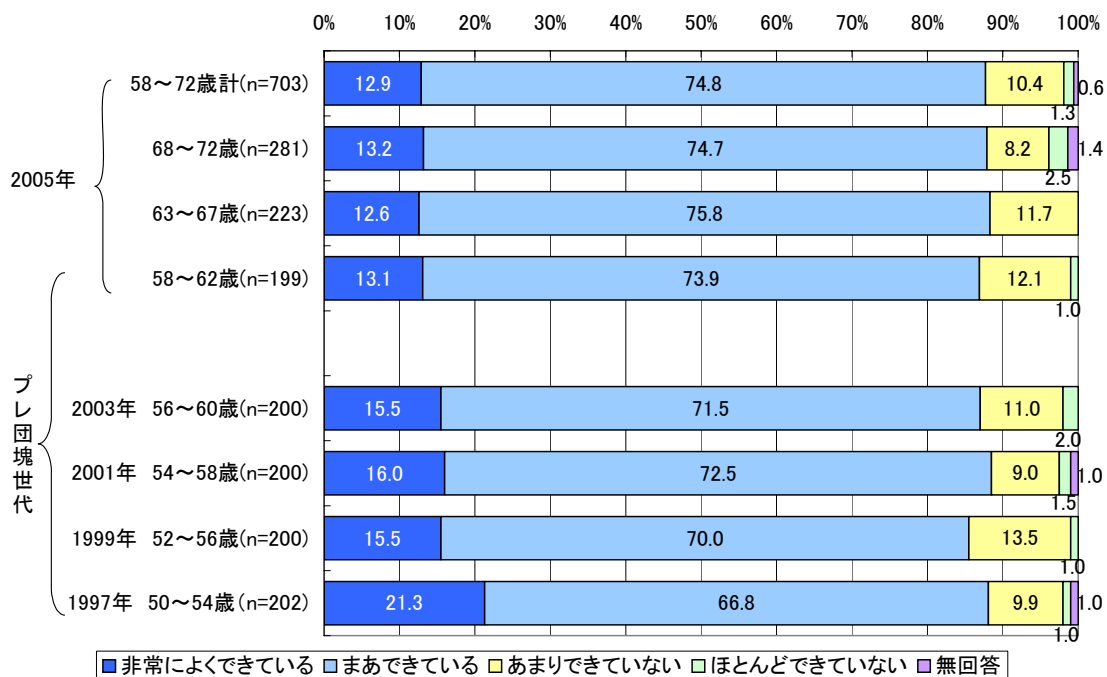
図表1 : 情報機器の利用率



II 中高年男性の9割弱は、夫婦の意思疎通が「できている」。

配偶者との意思の疎通度合いをたずねたところ、「まあできている」が74.8%と大半を占め、「非常にできている」も12.9%みられる。あわせて9割弱の中高年男性は、配偶者との意思疎通が「できている」と回答している。

図表2 : あなたは配偶者との意思疎通が十分にできていると思いますか



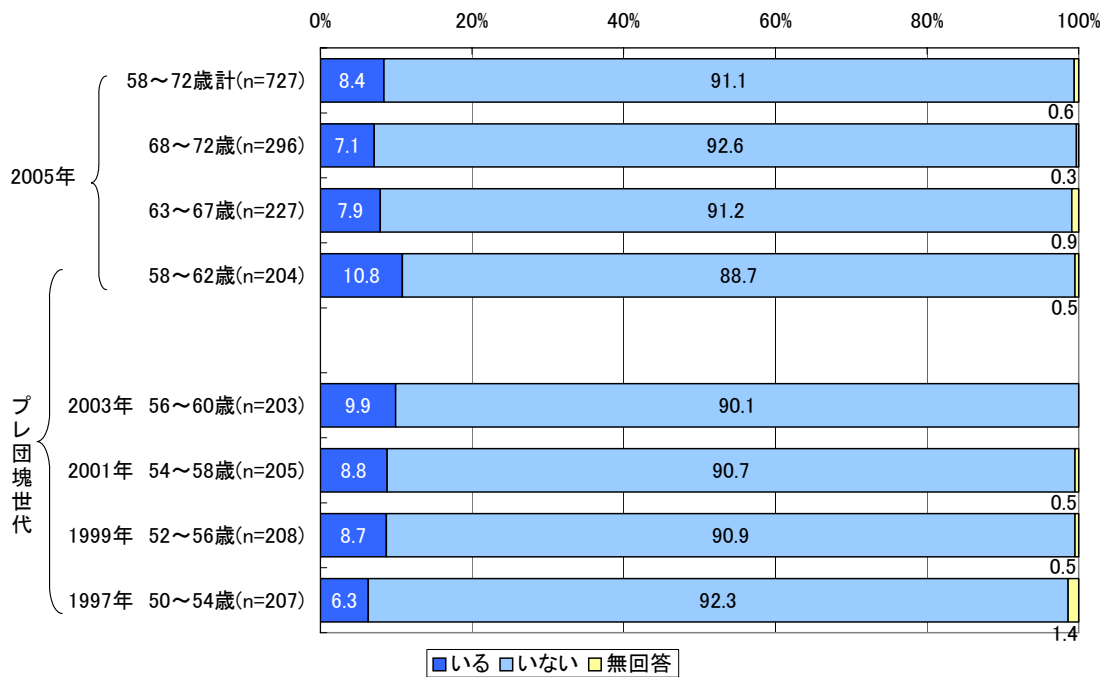
III 公的介護保険制度を「頼りにしている」割合は7割強～プレ団塊世代で1999年調査より約4割増加。

同居家族の中で、介護が必要な人がいる割合は1割程度である。プレ団塊世代をみると、この割合は1997年と比べると微増している。

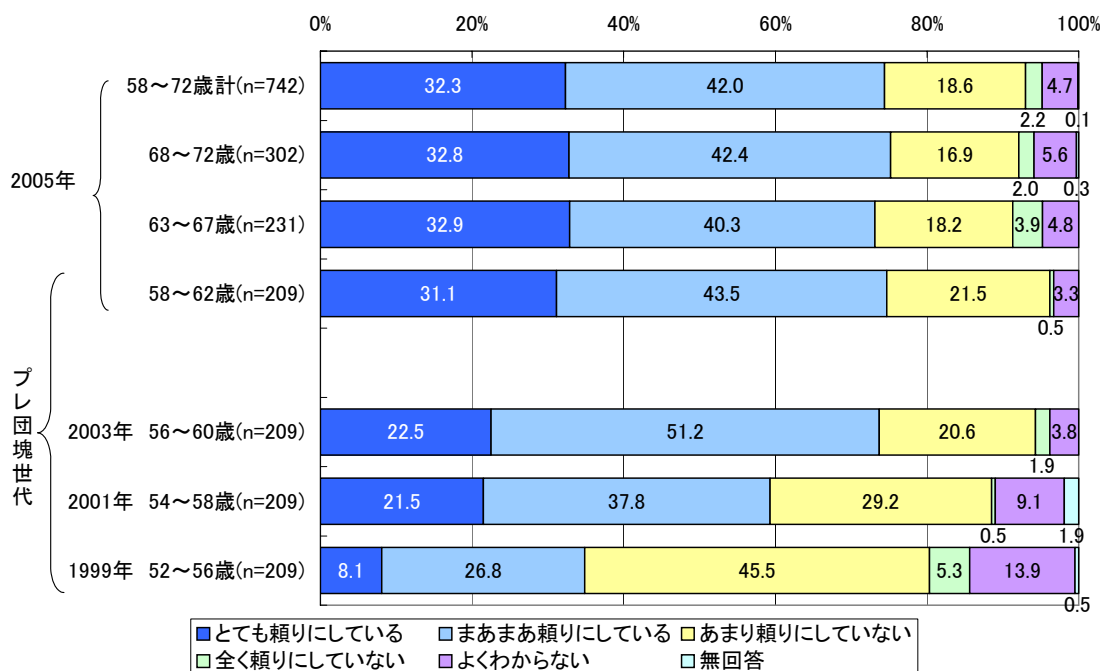
公的介護保険制度を「頼りにしている」割合（「とても頼りにしている」と「頼りにしている」の計）は7割強である。プレ団塊世代をみると、この割合は1999年から約4割上昇している。

民間介護保険の保有割合は6.5%と僅かだが、「将来保有したい」割合も含めると2割強にのぼる。58～62歳では保有意向がやや強い。

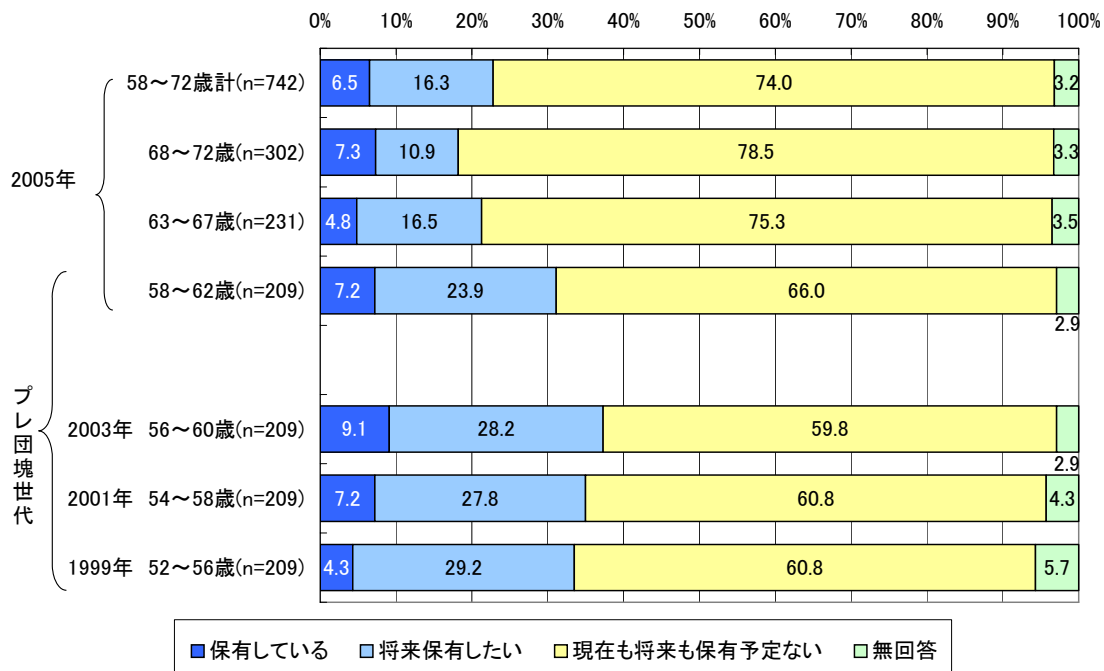
図表3 : 同居している方の中で、現在介護が必要な方がいらっしゃいますか



図表4 : 公的介護保険制度を、あなたはどの程度頼りにしていますか



図表5 : 民間介護保険に関する保有状況および保有意向について



IV 家計収入は年齢が高いほど減少するが、消費支出は年齢によって顕著な差なし。

1ヶ月の収入（平均）は40万円、年齢が高いほど減少する傾向がみられる。これに対し、1ヶ月の消費支出（平均）は22万円で、年齢による顕著な差はみられない。

プレ団塊世代をみると、2001年調査以降については、1999年調査に比べて収入（平均）が低くなっている。

図表6 : 1ヶ月の収入と消費支出－平均値

(万円)

		1ヶ月の収入	1ヶ月の消費支出	うちレジャー・交際費用	うち医療・介護関係支出	
プレ 団塊 世代	2005年	58～72歳計	40.32 (709)	22.04 (591)	4.96 (482)	2.30 (417)
		68～72歳	34.23 (289)	22.69 (217)	4.97 (183)	2.28 (166)
		63～67歳	38.44 (219)	21.36 (193)	5.46 (161)	2.40 (142)
		58～62歳	51.14 (201)	21.99 (181)	4.35 (138)	2.19 (109)
	2003年	56～60歳	53.32 (192)	24.96 (167)	4.68 (132)	2.76 (89)
	2001年	54～58歳	53.05 (191)	24.78 (160)	5.59 (120)	2.13 (92)
	1999年	52～56歳	61.97 (170)	26.95 (130)	5.21 (100)	1.80 (71)

注1：収入および消費支出（内訳含む）の数値は、11月の収入・消費支出「あり」と回答し、かつ金額の記入があったものの平均値である。

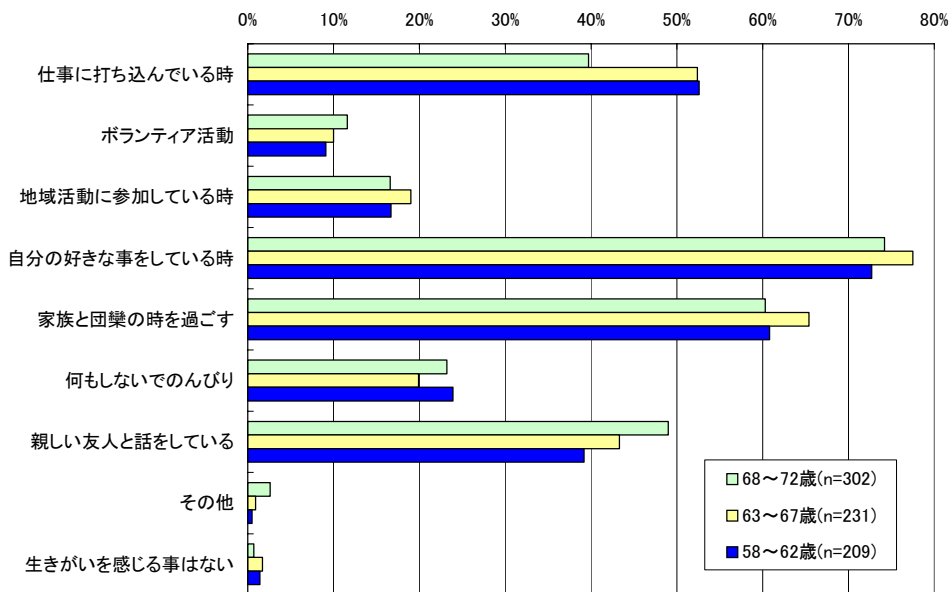
注2：（ ）内は平均値の計算に用いた標本数。

注3：1997年調査のデータについては、設問の方式が異なるので掲載していない。

V 中高年男性の生きがいは趣味と家族。

何をしているときに生きがいを感じるかとたずねたところ、いずれの年齢層においても、「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「家族と団らんの時を過ごしているとき」が上位2位となっている。「親しい友人と話をしているとき」、「ボランティア活動をしているとき」の回答割合は年齢が上がるほどやや高くなる一方で、「仕事に打ち込んでいるとき」は高い年齢層でやや低い。

図表7 : あなたは何をしているときに生きがいを感じますか (2005年調査)



注：複数回答

VI 中高年パネル調査の概要

(1) 調査方法

ニッセイ基礎研究所「中高年パネル調査（暮らしと生活設計に関する調査）」は、高齢社会の主演となる中高年のライフコースに焦点を絞り、その変動を明らかにすることによって、高齢社会におけるさまざまな社会基盤のあり方を模索するための材料を得ることを目的として実施した。

1997年の第1回調査から2005年の第5回調査まで、訪問留め置き法により、調査対象の中高年のそれまでのライフコースを回想法によって明らかにし、同一の回答者を2年毎に追跡して調査した。

(2) 調査対象について

本調査は、1933年（昭和8年）から1947年（昭和22年）生まれの全国に住む男性を対象としている。すなわち、調査開始時点の1997年において50～64歳の方が対象である（抽出割合は人口構成に準拠し、エリアサンプリング法により抽出した）。

図表8 : 調査時点と調査対象の年齢

調査対象世代	1997年	1999年	2001年	2003年	2005年
昭和8年～12年	60～64歳	62～66歳	64～68歳	66～70歳	68～72歳
昭和13年～17年	55～59歳	57～61歳	59～63歳	61～65歳	63～67歳
昭和18年～22年	50～54歳	52～56歳	54～58歳	56～60歳	58～62歳

(3) 調査の回収の状況について

配布・回収の方法は、訪問配布・訪問回収である。1999年、2001年、2003年、2005年の調査については、前回調査（2年前）の回答者に対して調査票の配布を行った。各回の調査における回収数は次のとおりである。

- 1997年調査 1,502 サンプル（4,000 アタック）
- 1999年調査 1,034 サンプル
- 2001年調査 910 サンプル
- 2003年調査 814 サンプル
- 2005年調査 742 サンプル

なお、本報告は5回の調査にご回答いただいた742サンプルをベースに集計している。

(4) 調査対象者の主な属性について

調査対象者の主な属性は次のとおりである。

図表9 : 調査対象者の主な属性 (2005年調査)

